

早生ナシ「早優利」、「凜夏」の盆前収穫技術を確立

■開発のねらい

丹後地域の特産であるナシの栽培では、中晩生品種への偏重により労働力が集中し、生産量や品質が安定していません。

このため、近年、育成された良質な早生品種「早優利」、「凜夏」の導入による労働力分散と、盆前収穫技術の開発・導入による生産安定と収益向上を図りました。

■技術の効果

- 「早優利」(図1)は果実肥大促進を目的に、満開約14日後の本摘果及び満開30日後のジベレリンペースト剤処理を併用することで、7月下旬に2Lサイズの果実が収穫可能(図1、表1)。
- 「凜夏」(図2)は収穫期前進を目的に、満開30日後にジベレリンペースト剤処理することで8月10日前後に収穫可能(図2、表1)。
- 本栽培技術で、早優利、凜夏ともに高価格が期待できるお盆需要に対応できます(図3)。

■経営への効果

品種転換により、経営全体で評価すると、約55,000円/10aの所得向上が可能(表2)。

■普及のポイント

- 苗木は各苗木販売業者で販売されています。
- 購入苗の芽を既存樹に高接ぎすることで、早期に品種転換が図れます。
- 丹後地域における新たなナシのブランド品目候補となり、直売所におけるお盆時期観光客への有力な品目となります。
- 既存の「ゴールド二十世紀」に高接ぎしても収穫期・品質は同様。



収穫直前(7月下旬)の早優利

- ・育種親は、おさ二十世紀×新水
- ・満開期は、二十世紀よりやや遅い
- ・花芽の量は、短果枝の着生は少ないが、えき花芽の着生は中程度

・高糖度だが、やや小玉

図1 早優利の概要



収穫直前(8月中旬)の凜夏

- ・育種親は、(豊水×おさ二十世紀)×あきあかり
- ・満開期は、二十世紀とほぼ同じ
- ・花芽の量は、短果枝の着生が多く、えき花芽はやや少ない

・果汁多く食感良好、大玉

図2 凜夏の概要

表1 開発した管理での特性(2015~2017年の3年平均)

品種	試験区	収穫始	収穫盛期	収穫終	果実重 (g)	糖度 (Brix)	pH
早優利	早期摘果+GA処理	7/24	7/27	8/3	322	13.3	4.6
	対照	8/4	8/6	8/10	253	13.4	4.7
凜夏	GA処理	8/9	8/12	8/14	539	11.3	4.7
	対照	8/17	8/21	8/24	518	11.8	4.7

表2 ゴールド二十世紀を早生ナシに転換した経営収支例

類型	粗収入 (千円)	経営費 (除雇用) (千円)	雇用費 (千円)	所得 (千円)
G二十世紀100a + 新興20a	12,300	5,651	567	6,082
G二十世紀70a + 新興20a + 早優利30a	12,525	5,522	326	6,677
G二十世紀70a + 新興20a + 凜夏30a	12,750	5,589	420	6,741
G二十世紀70a + 新興20a + 早優利15a + 凜夏15a	12,638	5,556	362	6,720

(ゴールド二十世紀100a+新興20aの類型を仮定し、そのうち、ゴールド二十世紀の30%を転換するとした)

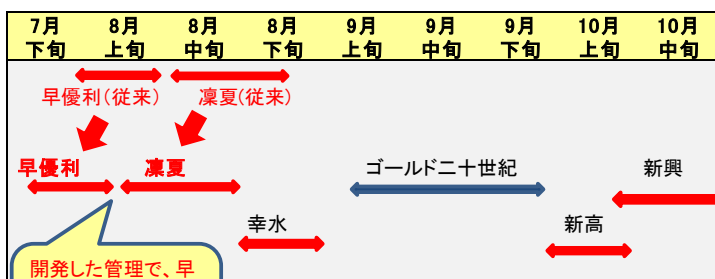


図3 丹後地域における主要なナシの出荷時期

開発した管理で、早優利は大玉・収穫前進し、盆前出荷可能